

【陸前高田市 竹駒保育園新設・再建事業】
子どもたちの笑顔が集う保育園に。
待ちに待った完成を祝い、竣工式が執り行われました。

3月29日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第3次助成先の一つである社会福祉法人陸前高田市保育協会（以下「陸前高田市保育協会」）は、再建中の竹駒保育園の完成を祝う竣工式を執り行いました。

岩手県陸前高田市には、陸前高田市保育協会に属する五つの保育園がありました。東日本大震災で、その中の竹駒保育園と広田保育園の二つの施設が甚大な被害を受けました。特に竹駒保育園は、海から6kmも離れた場所であったにもかかわらず、川を逆流した津波によって建物が大規模半壊し、使用することができなくなりました。震災後の一年間は系列の保育園である定員30名の下矢作保育園に55名の園児を受け入れ、職員室を保育室に代用するなどしてしのいできました。昨年4月からは仮設園舎に移り40人の園児を受け入れ、狭い園舎と園庭を有効利用しながら保育を行っていました。

陸前高田市保育協会では未来を担う子供達のため、また復興に奔走する保護者のために、子供達を安心して預けられる施設の高台への移設を計画しましたが、原型復旧の原則からはずれるため国からの補助を得られない状況でした。ヤマト福祉財団では、陸前高田市の復興に向けた地域就労環境を早期に改善するため、平成23年12月、竹駒保育園を高台に再建する費用として総額2億3400万円の助成を決定致しました。

新しい保育園は、以前の場所より400m内陸で10mほど高い位置となります。昨年7月30日に地鎮祭、今年2月20日には園舎上棟式が行われ、このほどようやく竣工式を迎えました。竹駒保育園は陸前高田市で仮設でない初めての公共の建物となります。

竣工式で陸前高田市保育協会の藤井喜八郎理事長は「安心して子どもが預けられるよう、職員一丸となって保育所の運営に邁進していきます」と挨拶。陸前高田市の戸羽太市長は「子どもたちが笑顔でいることが我々の復興の力になります。子どもたちが笑顔であれば、みんなが笑顔になる。行政も子育てしやすい環境をつくり、笑顔のあふれる保育園にしていきたいと思っております」とお祝いの言葉を話しました。



竣工碑の除幕式が行われました。



被災の様態や助成の内容が記された竣工碑

【新施設の概要】

- 木造平屋建て
 - 敷地面積：4061㎡
 - 建物：761㎡
 - 園児：70名定員
 - 職員：18名
- 規模は、旧施設の1.5倍、400m内陸に移動し、10m高台に建設されました



「保育ニーズに応えるように」と挨拶する藤井理事長



「笑顔の集う保育園にしていきたい」と戸羽市長



神事で玉串を奉てんする有富理事長

竣工式の前日、3月28日には、 新園舎で卒園式が行われました

3月28日、地元の気仙杉がふんだんに使われたピカピカの新園舎で卒園式が行われました。卒園生は男児6人、女児5人の11名。村上和加恵園長から保育証書を受け取った園児は、その証書を持って父母の元へ。「ありがとうございました」と、感謝の言葉とともに証書を手渡すときには父母の目にも大粒の涙がこぼれます。

『元気いっぱい、楽しかった保育園。泣いたり笑ったり喜んだり、たくさんの思い出ができました』『これからもありがたい感謝の気持ちを忘れず、羽ばたきます』とお別れの言葉を卒園生全員で発表しました。

村上和加恵園長は「子どもたちには苦勞させました。震災後の大変なときに子どもたちと工夫してやってきたので、そんな思いが私たちにも子どもたちにあると思います。ここが子どもたちの心の拠点となるように、私たちももう一踏ん張りして頑張っていこうと思います」と話されました。



新しい保育園(園庭より)



「感謝を忘れず羽ばたきます」と卒園児たち



一人ひとりに声をかけながら証書を渡す村上園長



証書を持って父母に感謝の言葉



気仙杉がふんだんに使われた園内。白い壁と木の色のコントラストが美しい廊下(写真左)、乳児室(写真上)、保育室(写真上右)